



◆ アイヌ文化のことをもっとも話したい!  
本田優子と村木美幸の二人が、その魅力を交代で  
執筆するソノコ(=お便り)形式のエッセイです。  
◆



今月のテーマ

## アマッポ(仕掛け弓)

村木美幸(アイヌ民族文化財団常勤理事)



### ク

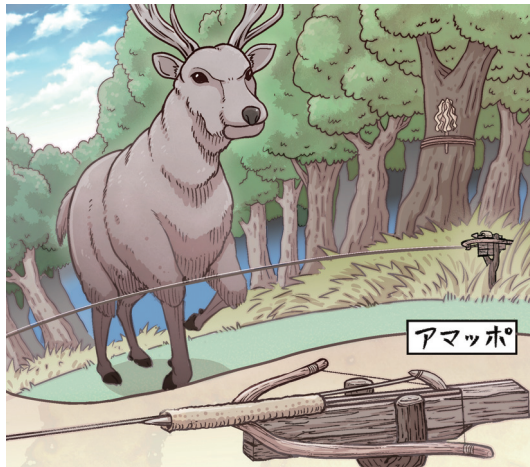
マヤシカ、キツネなどを追う山猟。野山の見通  
しの良い冬には手持ちの弓矢、草木の生い茂る  
夏から秋はアマッポやクワリ、アマク、クアレなど各地で  
さまざまによばれる仕掛け弓が活躍しています。

一七九九年、蝦夷地調査団に参加した秦徳磨が著した  
『蝦夷島奇観』に「アマクウ圖 山林曠野の中に弩のごとくな  
る弓を掛置、諸獸を射獲す。其獸  
の大小によりて、矢の高卑を手束  
にはかり懸置ぬ。張る所の糸にさ  
はれハ毒矢發出す。其矢、獸に當  
れハたち處に斃る。アマは置事をい  
ふ。グウは弓也。アマグウをかけ置  
處には必、木に木幣を立て、人の當  
さるしるしとす。」とアマッポでの  
山猟が詳しく紹介されています。

手持ちの弓矢は、人間が獲物  
を見つけ、その距離を測り、急所  
をめがけて弓を引く力加減、矢  
を放つタイミングを計るんです

が、アマッポはそれを無人で、おこなう。獲物とアマッポ  
の距離は弓の殺傷能力、獲物の種や大小で高さや延べ糸  
を調整し、毒の強弱を考慮することで、射止めた後の獲  
物の回収をも容易にするという優れたものです。

アマッポは弓矢を基本に、弓矢をつがえる台木、矢の  
引きがねとなるへの字形のヘチャウエ、獲物の通り道に



イラスト/ 莊田悠人

張る延べ糸、矢毒が雨などで流れ落ちないように保護す  
る筒状のアイチセからなり、矢毒による事故を防ぐのに  
仕掛けた場所には必ず自印をつけたといいます。  
弓材には弾力性のあるイチイなどが使われます。矢  
は手持ち用とアマッポでは違いがあり、手持ちの弓矢は  
離れた獲物を狙うため、矢を遠くに飛ばすのに、  
根の付いた矢柄との間に、  
割をする矢骨が付きますが、ア  
マッポは近距離用なので、重く丈  
夫なノリウツギの矢柄に、鏃をつ  
けただけのもので、獲物が暴れて  
矢柄が落ちて、鏃は体に残  
るよう、鏃と矢柄は簡単に外れ、  
矢毒の量も即効性があるようア  
マッポの方が多かったといいま  
す。ヘチャウエは延べ糸とつな  
がり、獲物が触れた振動で外れ、  
矢が発射する仕組み。そのタイ  
ミングを計る延べ糸の遊びとな  
る長さはヘチャウエの部分で調整します。

明治九年、開拓使はアマッポの使用を禁止しました  
が、その後も使用した記録が残っている他、弓矢を猟銃に  
代えた「鉄砲アマッポ」も昭和初期頃まで使われたとい  
います。現在もアマッポや弓矢での猟はできませんし、他  
の山猟も免許がいるので知っておいて下さいね。



今回のテーマは「ウェンカムイ(悪いクマ神)」  
本田優子(札幌大学教授)が担当します。



## ウポポイ

NATIONAL AINU MUSEUM and PARK  
民族共生象徴空間

JR白老駅から徒歩約10分



ウポポイPRキャラクター  
「トウッポボン」

- 本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
- 村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団常勤理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
- 莊田悠人(しょうたゆうと):平取町二風谷生まれ。漫画家兼イラストレーター。幼い頃のアイヌ文化が原風景。東京在住。



イランカラプテ  
「ごんにはち」からはじめる。